

令和2年7月16日決定  
令和2年11月19日改訂  
令和2年12月10日改訂  
令和3年1月22日改訂  
令和3年3月5日改訂  
令和3年9月15日改訂

## 柔道整復施術所における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン

公益社団法人 日本柔道整復師会  
一般社団法人 日本柔道整復接骨医学会

「柔道整復施術所（以下「施術所」という。）において提供する施術」（以下「施術」という。）においては、デルタ株等の変異株の拡大を踏まえ、新型コロナウイルス感染症に対する感染防止対策を徹底するため、厚生労働省ほか関係省庁の通知、関連学会の見解等を参考とし、柔道整復術を実施するにあたって適切な感染症対策を行い施術所の環境を確保する。

### 1 施術所の対応

#### (1) 基本的な姿勢

新型コロナウイルス感染症対策としていわゆる「3密」（密閉・密集・密接）を避けることとされている。施術所は、3つの密をそれぞれ可能な限り回避することにより施術を実施する環境の確保に努めることとする。

また、休憩時間に入った時など、居場所の切り替わりといった場面でも感染が起きやすいので注意する必要がある。

#### (2) 施術所の環境の確保

- ①デルタ株等の変異株の拡大を踏まえ、患者、柔道整復師は、相互の安全確保のため、原則、施術所ではマスクを着用することとする。また、施術所内では大声を控えていただくよう注意を喚起する。
- ②患者のマスクは、原則、患者に用意してもらう。マスクがない場合は、受診できないことを患者に伝え、マスクが確保できない時は、施術所で配布もしくは販売するようにする。

また、デルタ株等の変異株の拡大も踏まえ、正しいマスクの着用につい

て施設内に掲示等を行い周知するとともに、咳エチケットを徹底する。

\*正しいマスクの着用方法等については、厚生労働省 HP「国民の皆様へ（新型コロナウイルス感染症）」参照。

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000594878.pdf>

[https://www.meti.go.jp/covid-19/pdf/cough\\_etiquette.pdf](https://www.meti.go.jp/covid-19/pdf/cough_etiquette.pdf)

- ③受付後、速やかに予診票の記載、体温測定を行い、患者の健康状態を確認する。
- ④発熱（平熱より高い体温、あるいは体温が 37.5℃以上を目安とする）がある場合など、施術を行うのに不相当と判断した場合は、患者に説明したうえで施術することはお断りし、体調が回復してから来院するようお願いする。
- ⑤仕事でも休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まる可能性があること、また、休憩室、更衣室での感染が疑われる事例が確認されていることから、施術所内では事務室や施術者・スタッフ控室での 3 密を避けるため、共用する物を減らし、集団で食事をする等については感染リスクが上がることを認識し、避けるように努める。
- ⑥患者の「密集」を避けるため、施術所の患者数の状況により予約制についても検討する。
- ⑦患者と職員が対面で話す際は、適切な距離（1 m、できるだけ 2 m）を確保するよう配慮するとともにパーテーション設置をするよう努める。
- ⑧施術所の各ベッドはパーテーションで仕切りを設け、施術所の動線にも注意するよう努める。
- ⑨施術所の各ベッドは、患者を施術した後は、頭部にタオルなど敷いた場合には、その都度交換し感染リスクを避けるよう努める。また、ベッドも含め機器などについても、次亜塩素酸水等により除菌するなどして施術を行う環境の確保に努める。
- ⑩デルタ株等の変異株の拡大を踏まえ、適切な空調設備を活用した常時換気又はこまめに（1 時間に 2 回以上かつ 1 回 5 分以上）定期的に窓やドアを開けるなどして換気を行うことを徹底する。ただし、機械式換気装置が稼働し、十分な換気量が確保されている場合は除く。また、換気に加えて CO2 測定装置の設置と常時モニター（1000ppm 以下）の設置を検討する。なお、CO2 測定装置を設置する場合は、室内の複数箇所での測定し、特に換気が不十分になりやすい場所に設置する。また、HEPA フィルタ式の空気清浄機やサーキュレーターの補助的活用も可能である。

- ⑪職員は、手洗いをこまめに行うとともに次亜塩素酸水等により入念に除菌するよう努める。
- ⑫施術所内を次亜塩素酸水などで清拭するなどにより環境衛生に努める。特に、ベッド、椅子、ドアノブ、手摺、トイレなど患者が触れる箇所は、定期的かつこまめに清拭し環境衛生に努める。
- ⑬可能な限りキャッシュレス決済を導入し、コイントレー等での接受を励行する。
- ⑭トイレにおいては、ペーパータオルを使用し、共通のタオルは使用しない。
- ⑮鼻水や唾液のついたごみについては、ビニール袋に入れて密閉して縛るとともに作業者はマスクや手袋を着用すること。
- ⑯受付やレジ前において患者との接触機会を減らすため、ビニールカーテンやアクリル板を設置する。

### (3) 柔道整復師等職員が感染源とならないための配慮

- ①職員は毎朝出勤前に体温を測定し、発熱等の症状がある場合には、職場に連絡し医療機関を受診することとする。管理者は、毎朝職員の体温測定結果と体調を確認し記録することとする。なお、職員の体調等に異常を認められた場合には、その職員を出勤停止とする。
- ②過去に発熱が認められた場合には、解熱後 24 時間以上が経過し、呼吸器症状等が改善傾向になるまでは出勤を停止する。(インフルエンザ等が原因の発熱と診断された場合は各疾患の規定に従う) このような状況が解消した場合であっても、管理者は引き続き当該患者の健康状態には留意する。
- ③デルタ株等の変異株の拡大を踏まえ、すべての職員はマスクを着用するとともに、手洗い又は次亜塩素酸水等による手指の除菌を徹底して行う。また、マスクを着用している場合であっても会話は短く切り上げるようにする。
- ④職員休憩室なども十分な換気、休憩人数の制限、対面での食事や会話の自粛、食事中以外のマスクの着用、入退室前後の手洗い、共用物品の定期的な消毒を行い、職員間で感染が起こらないように努める。
- ⑤職員に新型コロナウイルス感染症の感染者が発生した場合には、管理者は保健所等の指示に基づき、直ちに万全の対応を行う。
- ⑥新型コロナウイルス感染症に罹患し、治癒した職員は、保健所等の指導に基づき出勤させる。
- ⑦使用した白衣はこまめに洗濯する。

#### (4) 職場における検査の更なる活用・徹底

(3) を徹底したうえで以下の点について積極的に取り組むこと。

- ① 普段から健康観察アプリなどを活用し、毎日の健康状態を把握すること。
- ② 体調が悪い場合には出勤せず、自宅療養することを徹底すること。
- ③ 出勤後に少しでも体調が悪い職員がいた場合や職員が発熱(37.5℃)、せき、喉の痛みなど体調不良を訴えた場合、職員に対し速やかに医療機関への受診するよう勧奨すること。なお、医療機関への受診が困難な場合、抗原簡易キットを活用して検査を実施すること。

④ 抗原簡易キットでの検査をし、その結果が陽性であった場合、保健所の了承を得たうえで、「接触者」に対してPCR検査等を速やかに実施すること。

⑤ 抗原簡易キットを購入するにあたっては

- ・ 連携医療機関を定めること
- ・ 検体採取に関する注意点等を理解した職員管理下での自己検体採取をすること
- ・ 国が承認した抗原簡易キットを用いること

\* 令和3年6月25日事務連絡「職場における積極的な検査等の実施手順(第2版)について」

<https://www.mhlw.go.jp/content/000798697.pdf>

令和3年8月13日事務連絡「職場における積極的な検査の促進について」

<https://www.mhlw.go.jp/content/000819118.pdf>

参照すること

#### (5) 寒冷な場面における新型コロナウイルス感染防止対策

冬期の寒冷な場面での感染防止対策については、以下のことに気を付けて防止対策を講じる。

① 寒い環境でも換気を実施

- 機械換気による常時換気を行う。
- 機械換気が設置されていない場合は、室温が下がらない範囲で換気を行う。(窓を少し開け、室温は20～25℃を目安とする。)

② 乾燥する場面では、適度な保湿(湿度40%以上を目安とする。)

- 換気しながら加湿するよう加湿器の使用も検討する。
- こまめな拭き掃除を実施する。

\* 「冬場における「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気の方法」(厚生労働省)を参考とする。

～ 商業施設等の管理者の皆さまへ ～

### 冬場における「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気の方法

外気温が低いときに、「換気の悪い密閉空間」を改善する換気と、室温の低下による健康影響の防止を両立するため、以下の点に留意してください。

- ✓ 「換気の悪い密閉空間」は新型コロナウイルス感染症のリスク要因の一つに過ぎず、一人あたりの必要換気量を満たすだけで、感染を確実に予防できるわけではなく、人が密集した空間や密接な接触を避ける措置を併せて実施する必要があります。

#### 推奨される換気の方法

##### ① 窓の開放による方法

換気機能を持つ冷暖房設備※や機械換気設備が設置されていない、または、換気量が十分でない商業施設等は、以下に留意して、窓を開けて換気してください。

※ 冷暖房設備本体に屋内空気を取り入れ口がある（換気用ダクトにつながない）場合、室内の空気を循環させるだけで、外気を取り入れ機能はないことに注意してください。

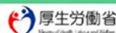
- 居室の温度および相対湿度を18℃以上かつ40%以上に維持できる範囲内で、暖房器具を使用※しながら、一方向の窓を常時開けて、連続的に換気を行うこと。

※ 加湿器を併用することも有効です。

- 居室の温度および相対湿度を18℃以上かつ40%以上に維持しようとすると、窓を十分に開けられない場合は、窓からの換気と併せて、可搬式の空気清浄機を併用すること。

##### 窓開け換気による室温変化を抑えるポイント

- ◆ 一方向の窓を少しだけ開けて常時換気をする方が、室温変化を抑えられます。窓を開ける幅は、居室の温度と相対湿度をこまめに測定しながら調節してください。
- ◆ 人がいない部屋の窓を開け、廊下を経由して、少し暖まった状態の新鮮な空気を人のいる部屋に取り入れること（二段階換気）も、室温変化を抑えるのに有効です。
- ◆ 開けている窓の近くに暖房器具を設置すると、室温の低下を防ぐことができますが、燃えやすい物から距離をあげるなど、火災の予防に注意してください。



#### 空気清浄機を併用する際の留意点

- ◆ 空気清浄機は、HEPAフィルタによるろ過式で、かつ、風量が毎分5m<sup>3</sup>程度以上のものを使用すること。
  - ◆ 人の居場所から10m<sup>2</sup>(6畳)程度の範囲内に空気清浄機を設置すること。
  - ◆ 空気のよどみを発生させないように、外気を取り入れる風向きと空気清浄機の風向きを一致させること※。
- ※ 間仕切り等を設置する場合は、空気の流れを妨げない方向や高さとするか、間仕切り等の間に空気清浄機を設置するなど、空気がよどまないようにしてください。

#### ② 機械換気(空調設備、機械換気設備)による方法

必要換気量を満たすことのできる機械換気設備等が設置された商業施設等は、以下のとおり換気を行ってください。

- 機械換気設備等の外気取り入れ量等を調整することで、必要換気量（一人あたり毎時30m<sup>3</sup>）を確保すること。
- 冷暖房設備により、居室の温度および相対湿度を18℃以上かつ40%以上に維持すること。

#### 参考

必要換気量を満たしているかを確認する方法として、二酸化炭素濃度測定器を使用し、室内の二酸化炭素濃度が1000ppmを超えていないかを確認することも有効です。

- ・ 測定器は、NDIRセンサーが扱いやすいですが、定期的に校正されたものを使用してください。校正されていない測定器を使用する場合は、あらかじめ、屋外の二酸化炭素濃度を測定し、測定値が外気の二酸化炭素濃度（415ppm～450ppm程度）に近いことを確認してください。
- ・ 測定器の位置は、ドア、窓、換気口から離れた場所で、人から少なくとも50cm離れたところにしてください。
- ・ 測定頻度は、機械換気があり、居室内の人数に大きな変動がない場合、定常状態での二酸化炭素濃度を定期的に測定すれば十分です。
- ・ 連続測定は、機械換気設備による換気量が十分でない施設等において、窓開けによる換気を行うときに有効です。連続測定を実施する場合は、測定担当者に測定値に応じてとるべき行動（窓開け等）をあらかじめ伝えてください。
- ・ 空気清浄機を併用する場合、二酸化炭素濃度測定は空気清浄機の効果を評価するための適切な評価方法とはならないことに留意してください。

※ HEPAフィルタによるろ過式の空気清浄機は、エアロソル状態のウイルスを含む微粒子を捕集することができますが、二酸化炭素濃度を下げることはできません。

R2-11-27

## 2 患者にお願いする事項

### (1) 事前に患者に通知する事項

- ① 以下のような患者については新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当分の間、施術することはお断りし、体調が回復してから来院するよう説明する。

ア いわゆる風邪症状が持続している方

イ 発熱（平熱より高い体温、あるいは体温が37.5℃以上を目安とする）、咳、息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ（倦怠感）、喉の痛み、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気、嘔吐、味覚異常、嗅覚異常などのある方

ウ 過去2週間以内に発熱（平熱より高い体温、あるいは体温が37.5℃以上を目安とする）のあった方

エ 2週間以内に、外国への渡航歴がある方および渡航歴がある方と家庭や職場内等で接触歴のある方

オ 2週間以内に、新型コロナウイルス感染症の患者やその疑いがある

方（同居者・職場内での発熱を含む）との接触歴のある方  
カ 新型コロナウイルス感染症の患者に濃厚接触の可能性があり、待機  
期間内（自主待機も含む）の方

- ②アからカに該当し症状が続く場合、あるいは基礎疾患（持病）のある方は医療機関に相談するよう説明する。
- ③新型コロナウイルス感染症に感染すると重症化しやすい高齢者、糖尿病・心血管系疾患・高血圧・慢性呼吸器疾患の基礎疾患がある方や透析を受けている方、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方には、施術を延期することも考慮する。
- ④感染拡大防止のため、厚生労働省が無償で提供するスマートフォン用の新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）や各地域の通知サービスの導入を施術所内で説明する。COCOAを入れている場合は、電源を on にした上で Bluetooth を有効にすることを推奨する。

## （2）施術を行うにあたって、患者にお願いする事項

- ①デルタ株等の変異株の拡大を踏まえ、患者には正しいマスクの着用をお願いする。
- ②マスクは患者本人で用意していただくが、万一、マスクがない場合には施術所に相談するようお願いする。
- ③マスク着用の場合であっても大声は控え、会話は短く切り上げるようお願いする。
- ④入口等に次亜塩素酸水等を用意しておき、適宜、手指を除菌するようお願いする。
- ⑤非接触型体温計等で体温を実測することへの協力をお願いする。

## **新型コロナウイルス接触アプリ（COCOA）のインストール方法**

・ App Store または Google Play で「接触確認アプリ」で検索してインストールしてください。

Google Play

<https://play.google.com/store/apps/details?id=jp.go.mhlw.covid19radar>



[App Store](#)

<https://apps.apple.com/jp/app/id1516764458>



## 感染リスクが高まる「5つの場面」

**感染リスクが高まる「5つの場面」**

<p><b>場面1 飲酒を伴う懇親会等</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 飲酒の量が多くなると、咳、痰が出やすくなり、ウイルスが排出されやすくなる。</li><li>● 飲酒の量が多くなると、咳、痰が出やすくなり、ウイルスが排出されやすくなる。</li><li>● また、飲酒の量が多くなると、咳、痰が出やすくなり、ウイルスが排出されやすくなる。</li></ul> 	<p><b>場面2 大人数や長時間におよぶ飲食</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 飲食場における飲食、特に長時間にわたる飲食は、感染のリスクが高まる。</li><li>● また、大人数、群集（5人以上）の飲食では、人密になり感染のリスクが高まる。</li></ul> 	
<p><b>場面3 マスクなしでの会話</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>● マスクなしでの会話で会話することで、飛沫感染のリスクが高まる。</li><li>● マスクなしでの会話として、顔と顔の間で会話している。</li></ul> 	<p><b>場面4 狭い空間での共同生活</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 狭い空間での共同生活、長時間にわたる共同生活は、感染のリスクが高まる。</li><li>● 狭い空間やトイレなどの共有施設での会話も感染のリスクが高まる。</li></ul> 	<p><b>場面5 席場所の切り替わり</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 授業での休憩時間に入った時など、席場所が切り替わると、感染のリスクが高まる。</li><li>● 授業中、休憩中、教室での席場所が切り替わると、感染のリスクが高まる。</li></ul> 

これらのことを踏まえ、従来の予診票に加えて下記のような項目をチェックすることも検討する。

1) 基礎疾患・免疫疾患がある

はい いいえ

「はい」と答えた方

下記の項目に当てはまるものにチェックを入れてください

- |                                  |  |
|----------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 糖尿病     | <input type="checkbox"/> 心血管系疾患          |
| <input type="checkbox"/> 高血圧     | <input type="checkbox"/> 慢性呼吸器系疾患        |
| <input type="checkbox"/> 癌       | <input type="checkbox"/> ステロイド剤内服薬など長期投与 |
| <input type="checkbox"/> 透析      | <input type="checkbox"/> 免疫抑制剤服用         |
| <input type="checkbox"/> その他 ( ) |  |

2) 37.5度以上の熱がある

はい いいえ

3) 風邪に似た症状がある（咳や喉の痛みや関節の痛みなど）

はい いいえ

4) 強いだるさ（倦怠感）や息苦しさ（呼吸困難）がある

はい いいえ

5) 味覚・嗅覚に異常がある

はい いいえ

6) 2週間以内に海外への渡航歴がある

はい いいえ

7) 新型コロナウイルス感染者、またはその疑いがある者との接触がある

はい いいえ

8) COVID-19 感染症の検査を受けた、または陽性と診断されたことがある

はい いいえ